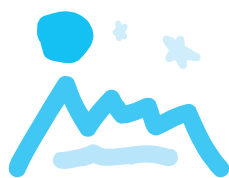


はらむら



議会だより

第106号

平成23年8月10日発行

発行／長野県諏訪郡

原村議会

編集／議会広報編集委員会

TEL 0266-79-2111

FAX 0266-79-7951

☎ 391-0192



諏訪地区消防ポンプ操法大会（三位入賞）第1分団

■平成23年■
**第2回
定例会**

- 就任のあいさつ 2
- 常任委員会の構成 3
- 第2回臨時議会 4
- 6月定例議会 5
- 委員会報告 6
- 一般質問 8
- 議会日誌 12

就任のあいさつ

議長

五味 武雄



副議長

小林 庄三郎



就任のあいさつ

村民の皆様には、日頃から議会活動に対し、ご理解とご協力をたまわり、議会議長に就任させて頂きました。心から感謝申し上げます。

私こと、去る5月6日の臨時議会におきまして、議員の皆様のご推薦により議長に就任させて頂きました。

たいへん身に余る光栄でありますとともに、その責任の重大さを痛感している

ところであります。

さて、社会経済情勢が激変する中、本村においても福祉・医療・教育、そして公共交通などの生活インフラの更なる整備等、大きな課題をかかえております。

先日読みました『デフレの正体』という本の中で、「経済を動かしているのは、景気の波ではなく人口の波、つまり生産年齢人口」現役世代の数の増減だ」とあり

ました。

原村においては、現役世代を中心とした移住(転入)者の増大により、毎年着実に人口が増えております。このことは、原村経済が拡大の方向に向かっていくこととのあかしであります。

引き続き、「活き活きた活力ある原村」の実現に向けて、議会として政策提言を行い、執行機関と協調すべき所は協調し、村政発展のために誠心誠意努力して参る所存です。

皆様方のご支援を、心よりお願い申し上げます。

明るく元気な村に

はじめに、この度の震災で被害を受けられた皆様へ、心よりお見舞いを申し上げます。

選挙後の初議会において副議長に選出されました。その重責を強く感じているところですが、

原村は転入等で人口増が続いています。八ヶ岳を望

める美しい田園風景があり、自然環境が豊かで人を惹きつける魅力があるからでしょう。

時代の流れは「地方分権」へと次第に大きくなります。未来を担う子どもたちのためにも住民の力で、あらゆる地域力を高めることが重要になると考えます。

明るく元気な地域社会を目指し、住民の暮らしや村の発展を考え、議長を補佐し、誠実に精一杯努力してまいります。ご指導の程宜しくお願い致します。

常任委員会の構成

副委員長



宮坂早苗

委員長



長谷川 寛

社会文教常任委員会

副委員長



小池利治

委員長



小平雅彦

総務産業常任委員会

委員



矢島昌彦

委員



さめしま 鮫島和美

委員



小池和男

委員



小林庄三郎

委員



木下貞彦

委員



日達徳吉

諏訪中央病院組合議会議員

小林 庄三郎

木下 貞彦

小池 和男

鮫島 和美

南諏衛生施設組合議会議員

矢島 昌彦

長谷川 寛

諏訪南行政事務組合議会議員

五味 武雄

小平 雅彦

諏訪広域連合議会議員

副委員長
小平 雅彦

日達 徳吉

鮫島 和美

委員長

小林 庄三郎

委員長

委員

小池 和男

宮坂 早苗

議会広報編集委員会

第2回原村臨時議会

臨時議会が5月6日に開催され、村長より提出された平成23年度一般会計補正予算(第1号)など4件を審議した。

正副議長選挙及び一部事務組合等の議員選挙を行った。

◎原村国民健康保険税条例の一部を改正する条例

(専決処分)

今回の改正は国保税の内、医療分「50万円」を「51万円」に、後期高齢者支援分「13万円」を「14万円」に、介護納付金分「10万円」を「12万円」に限度額を引き上げるものである。

◎平成23年度原村一般会計補正予算(第1号)

(専決処分)

既定の予算に、722万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ37億722万6千円とする。

◎平成22年度国民健康保険事業勘定特別会計補正予算(第5号)

(専決処分)

既定の予算に、992万7千円を追加し、歳入歳出予算の総額を、それぞれ8億9千276万2千円とする。



第17期初議会

平成23年第2回臨時議会 審議結果

表記：○は賛成、×は反対、▽は退席、―は欠席

| 議案等 番号 | 議案名等 | 議員名 | | | | | | | | | | 審議結果 | |
|-----------|--|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|----|
| | | 小池和男 | 宮坂早苗 | 鮫島和美 | 木下貞彦 | 小池利治 | 矢島昌彦 | 小平雅彦 | 長谷川寛 | 日達徳吉 | 小林庄三郎 | | |
| 《村長提出》 | | | | | | | | | | | | | |
| 同意第2号 | 原村監査委員の選任について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 同意 |
| 承認第2号 | 専決処分の承認を求めることについて(原村国民健康保険税条例の一部を改正する条例) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 可決 |
| 承認第3号 | 専決処分の承認を求めることについて(平成22年度原村国民健康保険事業勘定特別会計補正予算第5号) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 可決 |
| 承認第4号 | 専決処分の承認を求めることについて(平成23年度原村一般会計補正予算第1号) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 可決 |

一部事務組合議会報告

南諏衛生施設組合議会

臨時議会が5月25日に富士見町議会議場にて開催され、提出された3議案、全会一致で可決、同意した。

議長

名取 武一(富士見町)

副議長

小池 和男(原 村)

監査委員

小林 市子(富士見町)

諏訪中央病院組合議会

臨時議会が5月31日に諏訪中央病院で開催され、7議案が提出され、全会一致で可決、同意した。

議長

細川 治幸(茅野市)

副議長

山田 一治(諏訪市)

監査委員

小林庄三郎(原 村)

諏訪南行政事務組合

臨時議会が5月24日に茅野市議会議場に於いて開催され、提出議案4件、全会一致で可決、同意した。

議長

堀 晃(茅野市)

副議長

長谷川 寛(原 村)

監査委員

水野 政利(諏訪市)

諏訪広域連合議会

臨時議会が7月14日に諏訪市議会議場にて開催され、提出議案10件、全会一致で可決、同意された。

議長

今井 康喜(岡谷市)

副議長

小平 吉保(茅野市)

監査委員

濱 章吉(下諏訪町)

6月定例議会

平成23年第2回定例議会が6月8日から17日まで
会期10日間で開催された。

平成23年度一般会計補正予算（第2号）など村長
提出議案4件と議員提出議案3件を審議した。

委員会での審査内容は委員長報告のとおりです。

◎原村税条例の一部を改正 する条例

東日本大震災により住
宅等に被害を受けた者の
軽減を図るため地方税法
の一部改正等国税関係法
令の公布に伴い、被災者
の住民税の軽減処置の為
原村税条例の一部を改正
するもの。

生計を同一とする親族、
住宅借入金控除を受けた
住宅についての控除適用
が主である。

陳情の審議

審議された陳情と結果は
次の通りです。

◎最低賃金の抜本改正と安
定雇用の創出、中小企業
支援策の拡充を求める陳
情

陳情者

諏訪地区労働組合連合会

議長 堀内 哲男

「全会一致で採択」

◎「義務教育費国庫負担制
度」の堅持に関する陳情

陳情者

長野県教職員組合

諏訪支部

代表者 矢島 伸一

「賛成多数で採択」

意見書の提出

◎最低賃金法の抜本改正と
安定雇用の創出、中小企
業支援策の拡充を求める
意見書

提出者

総務産業常任委員長

小平 雅彦

宛先 内閣総理大臣他

◎「義務教育費国庫負担制
度」堅持を求める意見書

提出者

宮坂 早苗

宛先 内閣総理大臣
文部科学大臣他

◎原子力発電の廃止、及び
エネルギー政策の早期見
直しを求める意見書の提
出

提出者

鮫島 和美

提出者 鮫島 和美

「賛成少数で否決」

平成23年第2回定例議会 審議結果

表記：○は賛成、×は反対、▽は退席、－は欠席

| 議案等 番号 | 議案名等 | 小池 和男 | 宮坂 早苗 | 鮫島 和美 | 木下 貞彦 | 小池 利治 | 矢島 昌彦 | 小平 雅彦 | 長谷川 寛 | 日達 徳吉 | 小林庄 三郎 | 審議結果 |
|-----------|--------------------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|------|
| 《村長提出》 | | | | | | | | | | | | |
| 同意第3号 | 原村教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 同意 |
| 同意第4号 | 原村固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 同意 |
| 議案第27号 | 原村税条例の一部を改正する条例について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 可決 |
| 議案第28号 | 平成23年度原村一般会計補正予算（第2号）について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 可決 |
| 《議員提出》 | | | | | | | | | | | | |
| 発委第2号 | 最低賃金法の抜本改正と安定雇用の創出、中小企業支援策の拡充を求める意見書 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 可決 |
| 発議第2号 | 「義務教育費国庫負担制度」の堅持を求める意見書 | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 可決 |
| 発議第3号 | 原子力発電の廃止、及びエネルギー政策の早期見直しを求める意見書 | × | ○ | ○ | × | ○ | × | × | ○ | × | × | 否決 |

委員会報告

総務産業常任委員会

委員長 小平雅彦

原村条例の改正、23年度一般会計補正予算、最低賃金法改正等を求める陳情について審査した。

また、ペンションガルテン等の実施状況について事務調査を行った。

◎条例の一部を改正する条例

例 東日本大震災により住宅等に被害を受けた者の税の軽減措置を行うもの。

・原村での軽減対象者、具体的軽減内容について質疑があり、原村での軽減対象者は未定、青色申告事業法人、生計を同一とする親族、住宅借入金特別控除対象住宅についても摘要される、との説明があった。

・地方税法改正に伴うもので必要な制度であるとの意見があった。

◎23年度一般会計補正予算

・原村中小企業融資制度に対する預託金の増額。「縦の木荘」のテーブル、椅子の購入等によるもの。

・中小企業融資預託金増額の背景や「縦の木荘」についての質疑があり。

東日本大震災の影響等で経営は厳しい状況、特別経営安定資金等の需要が増加し預託金の積増が必要となった。

「縦の木荘」の椅子、テーブルは高齢者が増加し楽な姿勢での会食要望に対応するため、等の説明があった。

・消防団の女性団員や若い団員の加入促進を要望する。

・大規模地震等自然災害対策の強化が急務である、等の意見があった。

☆商工業支援制度と農林業支援制度の違いについて、「縦の木荘」の今後の方角等について議論された。

◎最低賃金法の抜本改正と安定雇用の創出、中小企業支援策の拡充を求める陳情。

意見書提出

事務調査報告

◎遊休農地活用と地域活性化への期待、南原のペンションガルテン事業

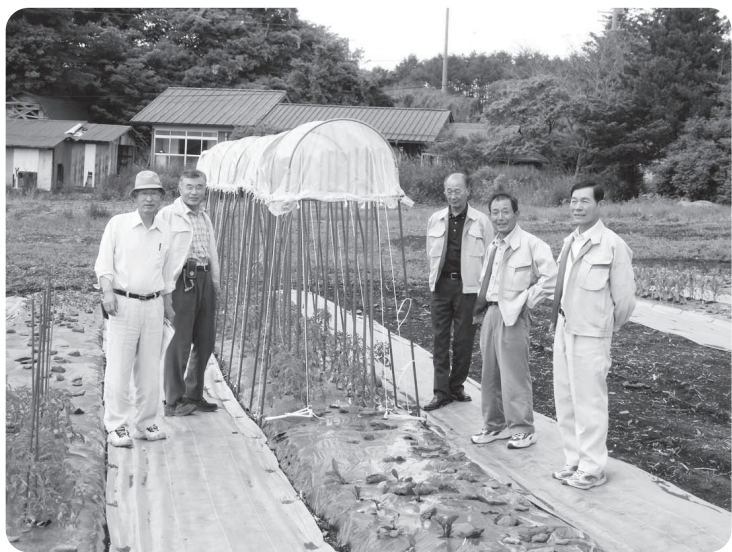
ペンションと農園利用者の連携により南原地区の遊休農地を市民農園として16区画が利用されている。遊休農地の解消、都市と農村の交流、地域活性化

◎草原のウォーキング「八ヶ岳森の小径」整備進む。

「四季の森」から鉢巻き道路添いにズームラインまで、「あゆみの小径」として現在約1000mが整備された。高原の遊歩道としてウォーキング等

◎原消防署

消防、救急施設、機器の整備は高度化に対応している。諏訪広域一元化体制整備が課題となっている。



南原のペンションガルテン

が期待出来る。

の利用が期待される。

今後は周囲の原野の不要木伐採、下草刈り等環境整備が必要である。

社会文教常任委員会

委員長 長谷川 寛

今回の議会は、初めて経験する数少ない議案審査の委員会だった。

村長よりの補正予算1件と、陳情の1件だけである。

◎今年度一般会計補正予算について

- 住宅リフォーム助成と太陽光発電への助成
- 50万円以上の住宅リフォームに關し10万円の補助をするもの。(村内業者が施行するもの)
- 太陽光発電に關しては、対象経費の10分の1上限20万円(村内業者)10万円(それ以外の業者)を補助するもの。
- 予算措置は初年度なので申請状況を見て補正予算で対応する。
- 50万円以上のリフォームにした根拠は、トイレ・浴室・台所・外壁・屋根などいずれの工事も50万

円を超える工事になるし、リフォームという実態からはふさわしいと判断した。

1建物1回のみ。何回にも分けてはできない。

いまのところ25年度までの期限措置である。

耐震、バリアフリーなど、それぞれの補助と併用可能。

補助率は高いと自負している。

併用住宅については居住部分に当たるか審査の上決定する。

太陽光発電の施工業者は村内業者を通じての発注であれば条件を満たす、との説明があった。

賛成であるが、50万円以上の工事ではなく、せめて20万円以上の工事から何らかの補助を考えるべきではないか。要望する。村内事業者に仕事をとい

う趣旨から、50万円以上の工事をしてもらいたいと思うので、賛成する。との意見があった。

◎陳情「義務教育費国庫負担制度」の堅持を求めることについて

知事会も合意して、国庫負担二分の一から三分の一への引き下げがあり陳情効果も期待できないの

で反対。
法的にも日本全国的機會均等が必要。二分の一に引き上げるべき。
100%無償にすべきであり、賛成。

との意見があり、賛成多数で採択となった。



事務調査報告

新人議員が二人とも当委員会の所属となり、所管に關する上水道の各水源、配水池、下水道のマンホールポンプなどの設置箇所を調査した。

さらに、道路巾のせまい箇所、小中学校の教室、講堂、プール及び運動場のトイレなども視察した。また、学童クラブ、保育園の施設、保育の様子なども見せてもらった。

小学校プール



元気な原っ子

一般質問 村政を問う

太陽光発電施設に 取り組む考えは

小平 雅彦

候補地を探して 検討していきたい



「村長」内陸型活断層で直下型大規模地震が、地球温暖化で巨大自然災害の発生が予想されている。

災害時の生命、財産は自ら守る自助、地域で守る共助が大切、村も広域連合と協調し防災訓練、広報による防災意識を高めていく。

（質問）二元代表制のもとでの議会との連携をどのように考えるか。また議会改革等議会のあり方についてはどうか。

「村長」自主・自立の理念を尊重し、住民とともに自治体を運営していくことが重要。

議論すべきは充分議論し、協調すべきは協調することが自治体運営を担う車の両輪としての基本姿勢と考えている。

（質問）大規模地震対策措置特別法が平成14年に見直され、原村も東海地震防災強化地域に追加された。大規模地震、武力攻撃等を含めた危機管理、災害対策をどのように進めるのか。



議会の改革、議会のあり方についての発言は、差し控える。議会で議論していただきたい。

（質問）自然エネルギーの拡大が喫緊の課題となっている。原村は太陽光発電の最適地とされている。

工場空地、遊休地等大規模太陽光発電に取り組む考えは。

「村長」遊休農地は法的に難しい。草原等含めて適地を検討していきたい。

（その他の質問）

東日本、県北部震災、福島原発事故の被害者支援について。

防災計画の見直しが必要

小林 庄三郎

見直しは行う

（質問）原村の近くには糸魚川―静岡構造線が通っている。東海地震もささやかれています。今回の東日本大震災を踏まえ、村の防災計画の見直しが必要ではないか。

「村長」東日本大震災を見ても、原村でも大規模な地震の起こる可能性は十分あり、自主防災組織の活性化、住民の防災意識の高揚が必要と考えている。

現在の原村地域防災計画は作成して3年が経過する。村の組織も変わっていることから見直しは行う。

（質問）中部電力浜岡原子力発電所が全面停止することになり、電力の供給力が不足すると言われているが村の節電等についての検討は。

「村長」庁内組織の「新エ

ネルギー・省エネルギー推進本部」を5月12日に設立した。行政として率先して節電のために実施することの確認や、太陽光発電システムのを設置する個人住宅への補助金制度の新設（6月議会で可決）を提言した。

住民による「新エネルギー・省エネルギー推進委員会」は早期に立ち上げる。

（質問）「地方分権」の時代が段階的ではあっても進んでいる。組織をつくり、研究を始めてはどうか。

「村長」国の制度をどうしていくかという大きな判断で、まずは町村会の動きを見ることが重要。

村としては上から流れてきたものに対して庁内でどう対応していくかの研究が主体となる。

農林業センサスから何が見えるか

木下 貞彦

中小規模農家が多く経営が厳しい



して、どんなことが見えるか。

〔村長〕2010年では販売農家人口は2千186人で、2000年3千346人、10年で、1千160人、3分の1以上減少。農家1戸当たりの平均耕地面積も減少。中小規模の農家が多く、経営が厳しいことが、農家の減少に拍車をかけている。高齢化に伴い重量作物から軽量作物に移る傾向はある。他産業から農業に参入したものは、統計的にはない。原村の林野率は45%で、林業経営体として5社ある。後継者確保対策として今年度から新規就農後継者育成事業を始めた。県の補助制度もある。

(9) 第106号 はらむら議会だより

〔質問〕農林業センサスから原村の農業経営の特徴と

〔質問〕保育所、小中学校、公共施設等の避難訓練の実

ほ場内の村道に農耕車優先の看板を付けては

日達 徳吉

難しいが検討したい



〔質問〕ほ場整備が完了し、舗装された村道でスピードを出したり大型車等が通行する車がある。農耕車優先の標識を設置する事が出来ないか。

〔村長〕大型重量車両が通ると農林仕様で舗装がしてあるので痛んでくるが、村道に編入してあるので幅員がある限り通行禁止は言えないので、「農耕車注意」又は「農作業者に注意」の標識を検討したい。

〔質問〕村長は今年度から原村観光協会長に就任したが、経過と理由は。

〔村長〕村の補助金を受ける民間の長を村長が務めるのは如何かと言う立場をとってきた。観光協会が衰退

態は。学校での不審者対策は。

〔村長〕保育所は毎月1回、小学校では年4回、中学校でも3回の避難訓練を行っている。9月1日の防災の日には村、小中合同で地震警戒宣言を想定して訓練をしている。役場は実施して

いない。福祉センターでは(保健センター、老人憩の家は共同防火管理)共同で実施する。

〔教育長〕不審者については、危機管理マニュアルに従って訓練している。



第2分団による祝水

して来たので理事と話し合いを重ね、観光業の為に緊急避難的に会長を引き受けた。運営が立ち直るまで、ずっと務めるといふことではない。「観光協会再建をめぐす専門委員会」を立ち上げ、抜本的に建て直しを1年かけて検討してゆく。

〔質問〕弓振ライスセンターから室内にぬける道路は幅員が狭い、農耕車の利用が多いので拡幅改良工事をしてはどうか。

〔村長〕道路の拡幅には用地確保が必要。可能であるか、地権者と相談をして検討している。

原発事故について

小池 利治

原子炉、全部停止の立場はとらない



(質問) 今回の福島原発事故、放射能が外部に放出されれば抑える手段はなく、被害はどこまでも広がる。長期にわたって危険を及ぼし、地域社会全体の存続そのものを危うくする。原発

技術は本質的に未完成で危険といえる。農業、漁業、工業、すべての人が放射能被害で苦しんでいる。まさに人災である。歴代政府は「安全神話」にしがみつきの原発政策を進めてきた。今必要なのは原発からの撤退を政治的に決断すること。

日本共産党は原発ゼロへのプログラム策定で、政府が速やかに決断実行するものとして、原発の新増設計画の中止、浜岡原発や福島原発の廃棄、老朽化した原発の中止を掲げている。こうした原発の被害や、これからの対策等についてどう考えるか。

「村長」すべての原子炉をやめろという立場はとらない。そういう立場をとる以上は、昔のランブ生活に戻れということであり無理。

(質問) 中新田、払沢区のは場内農道の舗装がひび割れ、デコボコ等で新しく舗装した道とは思えない状態である。原因は何か。
「課長」そこは県が事業主体である。県は道路の舗装



(質問) 5月に宮城県石巻でボランティア活動をして来た。被災地域をつぶさに見て、個人の救援活動も大切だけれど、それを越えた国や地方の自治体の全面的組織的救援、復興対策が急務だと考えた。

また、災害時に村民の命延長をするため大型車通行なしという構造を採用したため、寒冷地用の路盤厚が確保されなかった。

(質問) 住宅リフォーム助成制度について、工事費50万円からというが、20万円にしたらどうか。

「村長」リフォームだと50万円くらいはかかるといのが担当者の見通しである。

東日本大震災への真剣な救援対策、村の災害対策を

鮫島 和美

村民の善意を集結し、努力している

を守るための防災対策の見直しが必要だと思った。この二点についてどう考えるか。

「村長」民間の善意を集結するのも公だからできることである。村は東日本大震災に100万円、長野県北部地震に50万円送った。防災対策の見直しは必要だが、お金が結構かかる。どう整備するか。議論が必要。

(質問) 現在65歳以上、中学生までの医療費が無料だが、これを高校生(18歳)まで引き上げること。さらに「窓口無料」にすればよい完全だと考えるが、どうか。

「村長」高校生の医療費無料化も推進すべきだと思うが、村は医療費について、

既に財政面から能力以上のことをしている。今後の議論が必要である。

「窓口無料化」する事によってレセプト一枚500円の受益者負担や医療機関の事務費用もかかる。長野県の方針もあるので原村のみで実施するわけにはいかない。

(質問) 8月の「広島平和祈念式」に、中学生代表を派遣してはどうか。

「村長」村が平和教育に後ろ向きであるというわけではないが、学校及び教育委員会の検討を経て、派遣しないことになっている。その時期は、広島では大変宿が取りにくいという事情もある。

防災頭巾を子ども全員に支給できないか

宮坂 早苗

今後支給するとすればヘルメットである



〔質問〕 次世代育成支援について原村の子どもとは、何歳までを対象としているのか。

〔村長〕 原村では子育て支援はあります。児童福祉法によると18歳まで、医療費でみると中学3年生まで、高校3年生まで医療費無料化を採用すると、またあがる。何歳までやる、何歳からはやらない、そんなふうには決めていない。

〔質問〕 高校生や20代の若者たちの支援として、留学や研修、資格取得や自己啓発活動に、人づくり事業と

は別に支援できないか。例えば、大人たちと一緒に地域の奉仕活動をしたり、活動と引き換えに支援を受ける権利を得るとか、奉仕活動を通して地域の大切さや社会性を育む機会にもなると思うがどうか。

〔村長〕 原村の人づくり事業は、別に年齢を制限していない。別枠は考えなくていいんじゃないかそういうふうには思っている。

〔質問〕 農業雇用の拡大について、農業の周年雇用は難しく、短期雇用に頼らざるを得ない。村内在住者の雇用費に補助を出せないか。農業という職場で働くことにより、農業への理解も深まる。ぜひ若者がやる気をもつて仕事ができるよう支援をお願いしたい。



議員による「あゆみの小径」周辺の環境整備活動

〔村長〕 原村は農業にかかわる住民が大変多い。家に近い職場で雇用されて働けることは大変すばらしい。今少し研究をしていく必要がある。

〔その他質問事項〕

- 高校生まで医療費無料化
- 村内企業の子育て支援体制について

原村教育委員会委員に決まりました
今井田 紀子さん (上里)

任期 平成23年7月23日から
平成27年7月22日まで

原村固定資産評価審査委員会
委員に決まりました

日達 允昭さん (弘沢)

任期 平成23年7月23日から
平成26年7月22日まで

議会日誌

| | | | | | | | |
|-----|-------------------|----------|-------------------|---------------|-----------------------------|----------|---------------|
| 4月 | 1日 | 原村保育所入園式 | 20日 | 鹿兒島県長島町議会視察来村 | 18日 | 原村との境界確認 | |
| 5日 | 原小学校入学式 | 23日 | 原村商工会通常総会 | 7日 | 原村防犯組合定期総会 | 30日 | 原村水田農業推進協議会総会 |
| 6日 | 原中学校入学式 | 24日 | 原村環境保全審議会 | 8日 | 原村奨学生審議会 | | |
| 11日 | 議会広報編集委員会 | 25日 | 茅野防犯協会連合会 | 8日 | 第2回議会定例会 | | |
| 6日 | こひつじ幼稚園入園式 | 26日 | 原村地域包括医療推進協議会 | 9日 | 全員協議会 | | |
| 11日 | 原村有線放送運営審議会 | 25日 | 南諏衛生施設組合議会臨時会 | 9日 | 原村図書館協議会 | | |
| 27日 | 原村有線テレビジョン番組審議会 | 26日 | 宮城県南三陸町の皆さんを歓迎する会 | 10日 | 原村交通安全協会原支部定期総会 | | |
| 27日 | 諏訪郡市ゲートボール大会原村予選会 | 26日 | シルバー人材センター通常総会 | 11日 | 日本建築家協会25年受賞記念特別企画展(八ヶ岳美術館) | | |
| | 日本禁煙友愛会原支部総会 | 29日 | 諏訪湖流域下水道促進協議会定例会 | 16日 | 一部事務組合施設等視察研修 | | |
| 29日 | 茅野防犯協会連合会 | 29日 | 東京原郷友会総会 | 17日 | 原村図書館貸出15万冊達成記念式典 | | |
| | 会計監査 | 30日 | 原村商工業振興審議会 | 19日 | 消防ポンプ操法大会 | | |
| | 原村商工会東日本復興支援観桜会 | 31日 | 諏訪広域連合議会代表者会議 | 20日 | 弘沢区コミュニティセンター竣工式 | | |
| 5月 | 第17期原村議会 | | 諏訪中央病院組合議会臨時会 | 22日 | 八ヶ岳西麓広域営農団地整備促進協議会 | | |
| 2日 | 新議会議員研修会 | | 原村保健衛生自治推進協議会総会 | 27日 | 原村農業振興地域整備開発協議会 | | |
| 6日 | 議員懇談会 | 6月 | 長野県町村議会議長会臨時総会 | 28日 | 議会広報編集委員会 | | |
| | 第2回議会臨時会 | 2日 | 長野県町村議会議長会臨時総会 | 29日 | 諏訪広域連合議会代表者会議 | | |
| 10日 | 諏訪湖流域下水道促進協議会決算監査 | 3日 | 議会運営委員会 | | | | |
| | 禁煙友愛会原支部ゲートボール大会 | 4日 | 立沢区・広河原4区・ | | | | |



「訂正のお知らせ」

議会だより第105号(平成23年5月10日発行)

- 1ページ 平成23年1月定例会 誤 「1月」 正 「第一回」
 - 10ページ の1段目 誤 「椀の湯」 正 「もみの湯」
 - 13ページ 3段8行目 管理者召集のあいさつ 誤 「召集」 正 「招集」
- お詫びして、訂正させていただきます。

編集後記

東日本大震災の映像は目を覆いたくなるような、わが国が経験したことのない甚大な被害を映し出しています。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

5月より、議会広報編集委員会が新たに構成されました。見やすい誌面をお届けできますようがんばります。皆様のご意見をお寄せください。

中部電力浜岡原子力発電所が全面停止することになり、電力の供給量が不足すると云われています。節電を心がけましょう。

(小林 記)

編集委員会

- 委員長 小林庄三郎
- 副委員長 小平 雅彦
- 委員 小池 和男
- 同 宮坂 早苗
- 同 鮫島 和美
- 同 日達 徳吉